

お客様用

トヨタ純正 カーカバー（防災タイプ）取扱書

このたびはトヨタ純正カーカバー(防災タイプ)をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
本書はカーカバー(防災タイプ)を取り付ける場合の取付要領について記載してあります。
取り付けの前に必ずお読みいただき、記載された内容に従って正しく取り付けを行ってください。

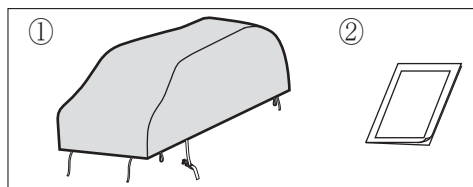
特に ・本品を改造しての取り付けは、絶対に行わないでください。
・記載事項を守らなかったために発生した不具合につきましては、
責任を負いかねる場合がありますのであらかじめご承知置ください。

品番

品 番
08372-B1050
08372-B1080

構成部品

・取り付けの前に、部品が揃っているかご確認ください。



No.	品 名	個数	補修品 有無
①	カーカバー	1	無
②	取扱書	1	無

- ・本製品は着火しても燃え広がらない特殊加工を施しています。
- ・本製品は、消防法施行規則に基づき評価を行い、(財)日本防災協会に認定されています。

取り付け上の注意事項

この取扱書では安全にご使用いただくため、特にお守りいただきたいことを次のマークで表示しています。

⚠ 警告・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車を損傷するなどのおそれがあり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

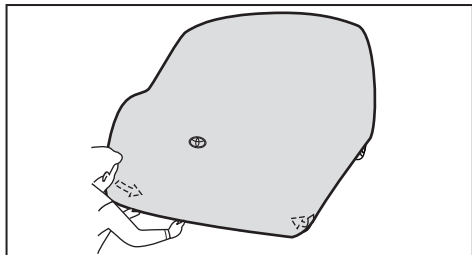
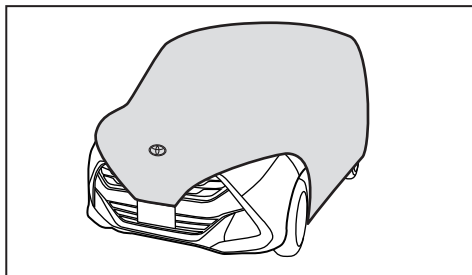
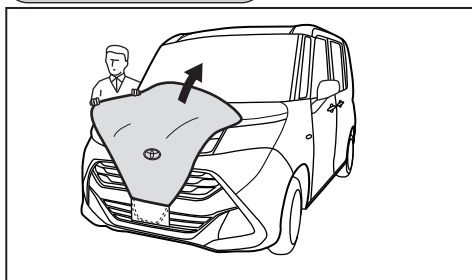
⚠ 注意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車を損傷するなどのおそれがあります。

👉 アドバイス・・・より安全、快適にご使用いただく上で知っておいていただきたいことを記載しています。

⚠ 注意

- ・車両に手を挟まないように、注意して作業を行ってください。
- ・ボンネット、ホイールディスク、マフラー等が熱い時はカーカバーの装着はしないでください。
- ・装着時、高温部にカーカバーが接触するとカーカバーが溶けたり、手等が触れると火傷します。
- ・取り付け、取り外しの際に強引に引っ張ったりすると、車体の傷やカーカバーの損傷の原因となりますので、取り扱いには十分ご注意ください。
- ・カーカバーで車体をこすらないよう、特にコーナー部ではカーカバーを浮かせて着脱してください。
- ・車体をきれいに保つためには、カーカバーを使用する前に車両及びカーカバー裏側の砂ほこり等、汚れを取り除いた後、使用することをお勧めします。
- ・カーカバーは単体でご使用ください。他のカーカバーと二重に装着したり、毛布・その他の物をカーカバー上部や下部に、部分的もしくは全面に当ててのご使用は絶対にしないでください。
- ・通気性を損ない、蒸れにより塗装面に悪影響を与える可能性があります。
- ・突起物装着車（システムベース、固定式コーナーコントロール、アタッチメント類等）によっては同時装着できませんので、ご了承ください。

取り付け要領



1. カーカバーの取り付け

⚠ 注意

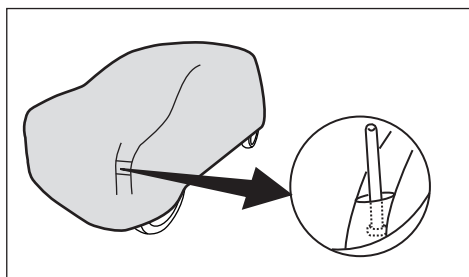
- ・カーカバーを取り付ける前に、車両及びカーカバー裏側の砂ほこり等の汚れを取り除いてください。
- ・ボディカバーを取り付ける前に、車両に付いているアンテナを収納してください。

- (1) ドアミラーを格納します。
- (2) 袋から①カーカバーを引き出し、トヨタマークを前方にして、ナンバープレートにゴムを掛けて車両全体に乗せます。
- (3) ①カーカバーを後部バンパーを包むように被せます。

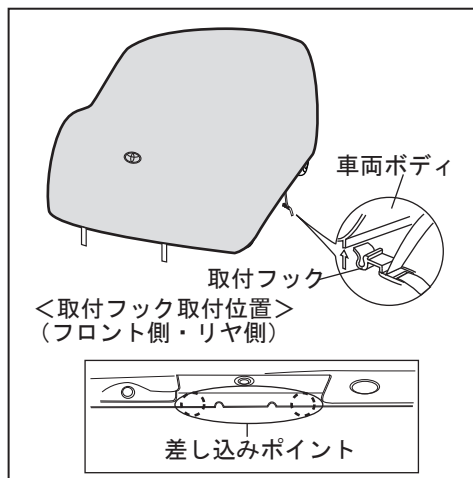
⚠ 注意

- ・ボンネット、ホイールディスク、マフラー等が熱い時にはカーカバーを装着しないでください。装着時にカーカバーが溶けたり、手等が触れると火傷します。

- (4) 前側のトヨタマークをボディフロントトヨタマークの位置に合わせながら、ナンバープレートからゴムを外し、フロントバンパーおよびコーナーをつつむように被せます。



＜コーナーポール装着車の場合＞
カーカバー本体の左前部スリットより
ポールを出して被せるか、格納します。



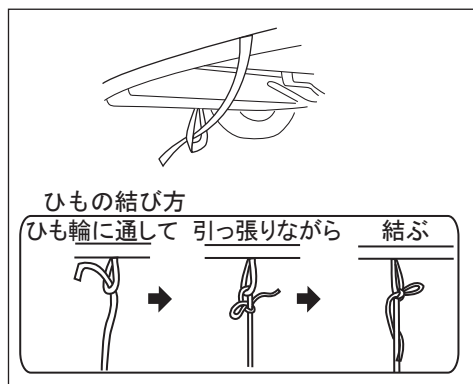
(5) 左右の取付フックを図のように取り
付けます。(2ヶ所)

⚠ 注意

ジャッキアップポイントでは幅が分厚く、
差し込めない場合がありますので、
左図(○部)を参考に幅が薄くなって
いる部分に差し込んでください。

👉 アドバイス

取付フックを車両にかけた状態でベルト
を絞り込む場合は、必ずボディフックが
外れないように手で押さえながらベルト
を引っ張ってください。

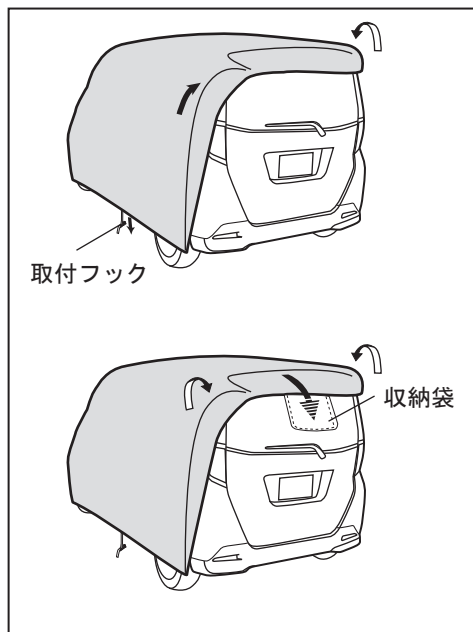


(6) ひもとひも輪をそれぞれ結びます。

(7) 最後に①カーカバーが車体に
しっかりかかっているか、取付フック
がしっかりと取り付けられているかを
確認します。

⚠ 注意

台風等の強風時は飛散の恐れがあり
ますので、取付フックを必ず取り付け、
ベルトでしっかりと絞りつけてください。



• •カーカバーの取り外し方

- (1) 左右の取付フック及び前後のひもを外してリヤ部の①カーカバーを外します。

⚠ 注意

取り外しの際に強引に引っ張ったりすると、車体の傷やカーカバーの損傷の原因となりますので、十分ご注意ください。カーカバーで車体をこすらないよう、特にコーナー部はカーカバーを浮かせて着脱してください。

- (2) ①カーカバー裏側に付いている収納袋を裏返して①カーカバーを押し込みます。

👉 アドバイス

カーカバーのゴムバンドは、図のように出しておくと次回の取り付けに便利です。

< 収納状態 >



取り扱い上の注意事項

- カーカバーの表面はカラーコーティングしてありますので、必ず表面を上にしてご使用ください。
- カーカバーには撥水加工を施してありますが完全防水ではありません。激しい雨・長時間の雨が降った後は必ず外して、カーカバー、車体共によく乾燥させてください。カーカバーにゴミや汚れが付きますと、撥水効果が低下します。
- カーカバーが汚れた場合は車から外し、水又はぬるま湯で柔らかい布かスポンジで洗い流してください。洗剤の使用やドライクリーニングの使用等、上記以外での方法でのお手入れは避けてください。
- カーカバーの寿命は、ご使用条件・環境等で異なります。紫外線・潮風等の影響で寿命は短くなりますが、交換の目安としては1年とお考えください。

！ 注意

- ・車体の塗装を傷付けるおそれがありますので、車体及びカーカバー裏側にほこり・煤煙等が付着している時は、毛バタキや柔らかい布等で取り除いてから使用してください。また、ワックスがけを行った時にはワックスを拭きあげ、よく乾燥させてから使用してください。
- ・車両の再塗装及び、ノンワックスコーティング加工等をした場合は、塗装面が十分乾燥、定着している事をご確認の上でカーカバーを掛けるようにしてください。完全に乾燥、定着していないと塗装面にカーカバーの生地目がついたり、シミのような模様が発生する等、塗装面を傷める可能性があります。
- ・カーカバーには防炎加工を施してありますが、不燃製品ではありません。火気の近くでのご使用または、火気を近づけることは絶対にしないでください。
- ・車両にカーカバーを掛けたままでエンジンを始動させないでください。最悪の場合、火災発生の原因となります。
- ・新車にご使用する時は、風等による摩擦で塗装面を傷めるおそれがあります。2～3ヶ月間は、カーカバーの掛け方、留め方に十分注意してください。
- ・強風時は飛散の恐れがありますので、取付フックを必ず取り付け、ベルトでしっかりと絞ってつけてください。
- ・冬場の乾燥する時期等、気候条件で静電気が起こり易い場合がありますので、ご注意ください。
- ・夏場や長時間装着する場合は、カーカバー及び車体の水分を拭き取り、乾燥させてからご使用ください。また湿気等により、カーカバー内側が湿っている場合がありますので、車体・カーカバー共によく乾燥させてからご使用ください。
- ・カーカバーを保管の際は、完全に乾燥させてから保管してください。濡れたままですと、カビ発生等カーカバーを傷める可能性があります。
- ・カーカバーを保管の際は、小さなお子様の手に届かない場所に保管してください。かぶって遊んだりすると窒息したり、思わぬ事故の元になる可能性があります。
- ・台風等の強風時や風が強く吹く場所に長時間かぶせたままにしておきますと、車体とカーカバーの隙間に砂ほこりが入り込み、カーカバーのバタツキにより、車体に細かいスリ傷がつくことがありますのでご注意ください。
- ・カーカバーは撥水加工を施してありますが、完全防水ではありません。また、ミシンの縫い目より水が漏れる可能性がありますので、降雨時に車体が濡れる可能性があります。
- ・激しい雨、長時間の雨が降った後は必ず外し、カーカバー、車体共によく乾燥させてください。濡れたままご使用されますと、車体及びカーカバーが傷みます。特に、メタリック車は光沢が無くなる可能性がありますのでご注意ください。
(完全防水にすると、カバー内部と外部の温度差による結露や地面からの蒸気でカバー内部が蒸れ、塗装の光沢を無くす恐れがありますので、ある程度の通気性を保っております。)